

綾のピアノ日記

第7回

西沢綾

52/9/28

●バレエといっしょに

学校の音楽室で、3組の黒岩ひかるさんと勉強していた。その勉強というのは、黒岩さんはバレエを習っているが、私がピアノのぼんそうをし、黒岩さんにおどってもらうという勉強だ。私は、ベートーベンのOp. 10-1第1楽章をひいた。

黒岩さんは、大きくおどったり小さくおどったりしているが、私のピアノはちっとも音の強弱がばつかりしない。バレエとあわせてよくわかった、もっと強弱をつけなければいけないことが。おどりは小さくなっていくが、私は音が小さくならなかった……。

黒岩さん、私のへたなぼんそうで、おどりにくくなかったかな？

※よいことに気づきましたね。

9/29

●●バウムクーヘンの絵

私はこのごろ、ピアノの勉強をあまりしてないような気がする。人間せいを豊かにしなければということを考えすぎたせいか、本を読んだり、絵を書いたり、近所を歩いてその歩く感じを作曲したりすることはよくしたが、一番のピアノのレッスンをやる時間が短くなってしまったような気がする。

今日、学校を休んで海谷先生のレッスンに行ったが、先生にも、

「今週はあまりお勉強してないでしょう」

と言われてしまった。

しかし、先生は、

「綾ちゃんは、ピアノをひく時、おっとりした感じになりすぎるから、もっと運動したり遊んだりしなさい」

ともおっしゃっていた。

しかし、運動を入れれば、もっとピアノの時間がとれなくなってしまふ。では、動作をもう少しはやくし、食事は15分か20分、そしてピアノはゆっくりできるようにしよう。

今日はコンクールに使う「バウムクーヘン」の曲の感じを絵にした。だんだん木の大きくなっていくのを、つまり、この曲のバウムクーヘンの年りんがだんだん大きくなっていくようすをかいたのだ。そこには、それぞれ5つの絵をかき、絵の上に、自分ででき当に考えた言葉を入れたりした。

あとで見なおしても、たいへん面白い絵だと思う。この絵を、今度のレッスンの時、先生に見ていただこうと思った。

10/1

●●●きのうわかったこと

きのう、学校のグランドピアノをおかりした。「バウムクーヘン」を練習していた。89小節目と91小節目の左手のオクターブの音をならすと、どうもつぶれたような、死んだような、にごったようなへんな音がした。私はその音を練習した。

まず、両手で、左は下、右は上の音をとってならした。まるみのある、いい音がした。その音をよくきくと、上の音に少しアクセントがついていた。私は、今までいつも左手がうけもつ音やオクターブ下の音が強くなければいけないと思っていたので、こんどは、左手の下の音を強くひいてみた。すると、どうもさっきのような音が出ない。それが、何度やってもそうだ。だから、私はこの音は下より上の音を強くしなくてははいけないということと、和音やオクターブの左はいつも下の音が主ではないということがわかった。それなら、右手はいつも上の音が主なのではないのかもしれない。

それからもうひとつ、ベートーベンをひいていたら、和音にぶつかった。どうも上の主になる音が出ない。いつもなら、そのままその音を何度もくりかえして、よくなったらすすんでいってしまうが、今日はそうせず、上の主の音その次の音の2音だけやり、よく上の音が出たら3音、よくなったら4音というように、ふやしてゆき、さいごにもとの音にもどったとき、いい音が出るようにした。

それから、弱くしなければならぬ音だけでひいて、よくそろい、きれいになったら主音といっしょにひいてよい音にしたりした。

よいことがわかって、とてもうれしかった。

10/6

●●●●時間がほしい！

うらのおばあちゃんは、いつもぼんやりしている。お兄ちゃんも、たまにぼんやりしている。おじいちゃんもお兄さんも、ひまな時はいつもテレビを見ている。

私はそんな人たちの、よけいな時間がほしい。そうすれば、みんなと楽しく遊ぶこともできるし、



作曲も、うたうことも、絵を見たりかいたりすることも、時間のある時は、好きな曲をぬき出して初見でひくことも、レコードなどをきくことも、何でもできる。

私って、よくばりで心の冷たい人間なのかもしれない。しかし、本当によくばりでいじわるだと思うけど、ひまな人の時間がほしい。

10/8

●●●●●右手がつかれてしまう

ハノンの6番を長調だけで全部い(移)調してひく練習をしていたら、と中で、左手はつかれないのに右手がいたくなってきた。力をぬいて左手と同じ形でひこうとしたが、右手のつかれがぬけない。右手のほうがよく動くはずなのにへんだな。

ゆっくりひいたが、なかなか力がぬけない。もつとおちついて、ゆっくりひかなくちゃ、はやくかけるようにならないのかな。

10/9

●●●●●モーツァルトをひいてみたら

今日は、今までやっていたモーツァルトのソナタ・アルバム1の中から、K.330の全楽しょう、K.332の第1楽章を久しぶりにひいてみた。

自分の思いのままにひいてみたら、スラーやスタッカートが、ふと、まるつきりちがう所が出てきてしまった。しかし、私は、これでいちおうまん足できた。

インヴェンションの4番は、もう一度テーマの勉強をした。三連符や四連符で練習したら、手が思いのままに動くようになってうれしかった。

10/10

●●●●●ろくおんをしてみたら

コンクールのソナチネ(クレメンティ)、「ベニスの舟歌」(メンデルスゾーン)、「バウムクーヘン」(湯山昭)の3曲を、ろくおんしてきいてみた。ソナチネは、ひいている時は何も思わないのだが、たまに、フツと音のぬけてしまう所がある。それに、今日のレッスンで注意されたスタッカートのひき方が、どうもうまくいかない。

「ベニスの舟歌」は、きいてみると、フラフラしているような感じがする。

「バウムクーヘン」は音がにごってしまう所があり、あせてひいているような感じだ。

もうすぐまた東京へ行くというのに、こんなことではこまる。これから少ししかないが、今度は心を入れかえてしっかり勉強しよう。

10/13

●●●●●遠足に行きたいけど……

あすは学校の遠足だ。まだ行ったことのない飯山市に行ける！しかし、私は行かない。

「遠足に行ったら、くたびれて、東京に行ってもうまくえんそうができないから、遠足は休みなさい。そして、4時ごろレッスンに来なさい。さいごのレッスンをします」

と海谷先生もおっしゃっている。

聞けば、約8キロは歩くと、先生もおっしゃっていた。そんなに歩いたら、いよいよという時になって、手が動かなくなるだろう。

私だって飯山なんか行ったことがない。8キロ歩き通してみたい。しょう雪パイプも、がんぎの通りも、飯山じょう(城)も、駅も見たくてたまらない。しかし、遠足など行ってはられない。

何をやるにも、何かひとつずてなければならぬのだ。私は、これまでに、ピアノのために大すきなことをすてたことがない。あすは、ピアノのために遠足をすて、家で一日練習し、あすのばん(晩)に東京へ向かうのだ。

しかし、せめて見おくりだけはして、みんなとわかれよう。もしかしたら、海谷先生のレッスンに行く時もみんなとあえるかもしれない。

みんな、私の分まで勉強してきてね。そして、私にどうだったかすべて教えてね。私はそれだけでいい。遠足に行きたいと言っても、もうどうにもならないのだから。それより、みんな、しっかり楽しい遠足にしてきてちょうだいね。

ヤ

ン

グ

ピ

ア

ニ

ス

ト

の

た

め

の

へ

1

ジ